

鹿児島県から得られたミヤケテグリ *Neosynchiropus moyeri* (ネズツポ科：コウワンテグリ属) および標本に基づく鹿児島県のネズツポ科魚類相

岩坪洗樹¹・本村浩之²

¹ 〒 890-0065 鹿児島市郡元 1-21-30 鹿児島大学総合研究博物館 (水産学部)

² 〒 890-0065 鹿児島市郡元 1-21-30 鹿児島大学総合研究博物館

はじめに

ネズツポ科 (Callionymidae) は世界で 20 属 183 種、日本国内からは 14 属 34 有効種および 1 未記載種が知られている (Nakabo, 1982; 中坊, 2000; Fricke, 2002; Motomura and Mukai, 2006; 岡村, 2009). このうち、コウワンテグリ属 (*Neosynchiropus*) は、ヤマドリ *Neosynchiropus ijimai* (Jordan and Thompson, 1914), セソコテグリ *N. morrisoni* (Schultz, 1960), ミヤケテグリ *N. moyeri* (Zaiser and Fricke, 1985), コウワンテグリ *N. ocellatus* (Pallas, 1770) の 4 有効種、およびアカオビコテグリ *Neosynchiropus* sp. の 1 未記載種が日本から知られている (中坊, 2000; 岡村, 2009).

Neosynchiropus moyeri は Zaiser and Fricke (1985) により、伊豆諸島三宅島から採集された 24 標本 (標準体長 22.0–60.8 mm) に基づいて *Synchiropus moyeri* として記載され、同時に標準和名ミヤケテグリが提唱された。日本国内において、本種はこれまでに伊豆諸島、高知県柏島、沖縄諸島、および八重山諸島から報告されている (Zaiser and Fricke, 1985; 平田ほか, 1996; 中坊, 2000; 岡村, 2009).

2009 年 10 月 4 日に鹿児島県南さつま市坊津町丸木浜から、ミヤケテグリと同定される 1 個体が採集された。これまで鹿児島県から本種は記録さ

れていないため、鹿児島県から得られたミヤケテグリを記載し報告する。また、鹿児島大学総合研究博物館 (KAUM) に所蔵されている鹿児島県産のネズツポ科魚類標本をあわせて報告する。

材料と方法

標本の計数・計測方法は Nakabo (1982) に従った。標準体長は体長と表記した。計測はデジタルノギスを用いて 0.1 mm まで行い、計測値は体長に対する百分率で示した。胸鰭条数は左体側のものを計数した。脊椎骨数は軟 X 線写真を用いて計数した。本報告で用いた学名は中坊 (2000) に従った。ミヤケテグリの体色の記載は、KAUM-I. 22535 の生鮮時のカラー写真に基づいて行い、色彩の名称は財団法人日本色彩研究所 (2007) に従った。

結果と考察

Neosynchiropus moyeri (Zaiser and Fricke, 1985)
ミヤケテグリ (Fig. 1)

標本 KAUM-I. 22535, 雄, 体長 42.3 mm, 鹿児島県南さつま市坊津町丸木浜 (31°17'05"N, 130°12'36"E), 水深 0.5 m, 2009 年 10 月 4 日, タモ網, 岩坪洗樹。

記載 背鰭条数は IV-8; 臀鰭条数は 7; 胸鰭条数は 23; 腹鰭条数は I, 5; 尾鰭条数は $i + 7 + ii$; 脊椎骨数は $6 + 12 = 18$ 。体各部測定値の体長に対する割合 (%) : 背鰭起部での体幅 20.1%; 背鰭起部での体高 19.1%; 尾柄高 9.2%; 背鰭前長 25.5%; 尾鰭長 35.2%; 頭長 29.3%; 眼径 6.6%; 吻長 9.9%; 上顎長 9.9%; 両眼間隔幅 8.3%; 背鰭

Iwatsubo, H. and H. Motomura. 2010. A first record of *Neosynchiropus moyeri* (Perciformes: Callionymidae) from Kagoshima Prefecture, southern Japan and a synopsis of dragonets in Kagoshima. *Nature of Kagoshima* 36: 65–73.

✉ HM: Kagoshima University Museum, 1-21-30 Korimoto, Kagoshima 890-0065, Japan (e-mail: motomura@kaum.kagoshima-u.ac.jp)



Fig. 1. Preserved male specimen of *Neosynchiropus moyeri* from Kagoshima Prefecture, Japan (KAUM-I. 22535, 42.3 mm SL).

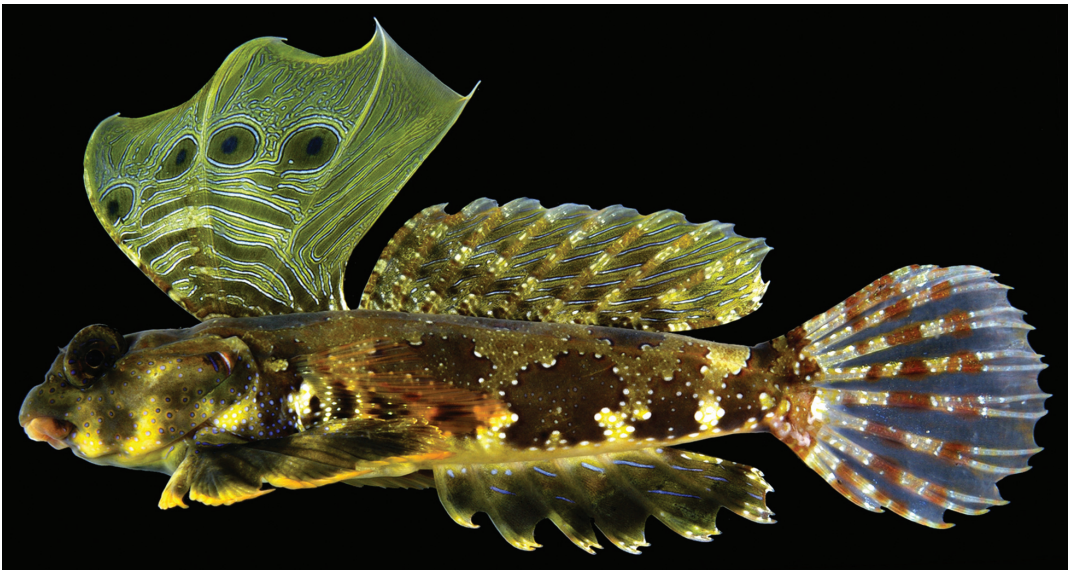


Fig. 2. Fresh male specimen of *Neosynchiropus ocellatus* from Kagoshima Prefecture, Japan (KAUM-I. 17467, 61.7 mm SL).

第1棘長35.0%；背鰭第2棘長45.2%；背鰭第3棘長48.9%；背鰭第4棘長38.1%；背鰭第1軟条長17.7%；背鰭最終軟条長22.5%；臀鰭第1軟条長9.0%；臀鰭最終軟条長19.4%；胸鰭長24.6%；腹鰭長19.4%；前鰓蓋骨棘長9.2%；肛門小突起長2.1%。

体は細長く縦扁し、無鱗で粘液質におおわれる。尾柄は細長く、後方に向かってより細くなる。眼は体背面に位置する。吻は突出し、吻端は尖る。口は小さく、主上顎骨後端は眼の中央を超えない。前鰓蓋骨に強い1棘がある。鰓孔は丸く、背鰭起

部の下方に位置する。側線は体背側寄りを走る。背鰭は2基ある。雄の背鰭棘はすべて糸状に伸長する。第2背鰭のすべての軟条および第1軟条を除く臀鰭軟条は、先端が2分岐する。

色彩 体背面から体側面にかけて紅色の大理石模様で、体腹面は白。雄の第1背鰭は帯状模様で、眼鏡状模様を含む上部の帯状模様はオリーブ色、下部の帯状模様は明るい赤、上部下部ともに帯状模様の縁は白であり、帯状模様の間はこい緑みの黄。第2背鰭の地色は黄みの白で、不規則な紅色斜帯がある。臀鰭は灰みの白。胸鰭は透明でオレンジ色帯が2本ある。腹鰭は暗いグレイ。尾鰭の地色は白で紅色の斑点が散在する。

ホルマリン固定後は、紅色、オリーブ色、明るい赤、および暗いグレイは明るいグレイ、こい緑みの黄は黄みの白となる。胸鰭のオレンジ色帯は消失し透明となる。

分布 本種は、日本国外ではインドネシア (Kuitert and Tonzuka, 2004; 本研究: 備考参照)、パラオ、オーストラリア (Fricke, 2002)、国内では伊豆諸島三宅島 (Zaiser and Fricke, 1985; 平田ほか, 1996; 中坊, 2000)、高知県柏島 (平田ほか, 1996; 中坊, 2000)、鹿児島県南さつま市 (本研究)、沖縄諸島 (中坊, 2000)、および八重山諸島西表島 (岡村, 2009) に生息することが確認されている。

備考 本標本は、尾鰭中央部の軟条の先端が分岐すること、前鰓蓋棘の後端が鉤状ではないこと、下唇上縁に肉質突起がないこと、体側下部に皮褶がないこと、鰓蓋部は皮弁状でないこと、腹鰭には遊離軟条がないこと、第2背鰭軟条の先端は2分岐であること、臀鰭軟条 (第1軟条を除く) の先端が分岐すること、雄の第1背鰭の第2鰭膜に2個の眼状模様が連続して眼鏡状となった斑紋があること、および生鮮時の体色が紅色の大理石

模様であることなどによりミヤケテグリと同定された (Zaiser and Fricke, 1985; 中坊, 2000)。また、*N. ocellatus* として報告されていた Randall (2005: 509, 下2図, インドネシア) は、雄の第1背鰭の第2鰭膜に2個の眼状模様が連続して眼鏡状となった斑紋があることと、生鮮時の体色が紅色の大理石模様であることから、本研究によってミヤケテグリと同定された。

本種の鹿児島県での採集記録は、これまでの分布の空白域を埋めるものであり、本種が南日本の太平洋沿岸から沖縄にかけて広く分布することを示唆する。

ミヤケテグリとコウワンテグリは、雄の第1背鰭の模様が異なる。ミヤケテグリは眼状模様が2-3個 (通常2個) あり、連続し眼鏡状となる (Zaiser and Fricke, 1985; 中坊, 2000; Table 1)。一方、コウワンテグリは眼状模様が2-6個 (通常4個) である (Kamohara, 1957; Zaiser and Fricke, 1985; 中坊, 2000; Table 1)。さらに、ミヤケテグリの第1背鰭上の帯状模様は、すべて背鰭棘に対し垂直であるが (Fig. 1)、コウワンテグリの帯状模様は、眼状模様より上部では背鰭棘に対し平行である (下部では背鰭棘に対し垂直となる; Fig. 2)。

ミヤケテグリは通常、藻類被度の高い転石地に生息しており (Zaiser and Fricke, 1985)、本報告での採集場所も同様の環境であった。

■ 鹿児島県のネズツポ科魚類相

鹿児島大学総合研究博物館 (KAUM) に所蔵されている、鹿児島県で採集されたネズツポ科魚類7属12種 (1未同定種を含む) を以下に示す。

Bathycallionymus kaianus (Günther, 1880)

トンガリヌメリ (Fig. 3)

標本 KAUM-I. 1245, 体長 88.3 mm, 東シナ海 (30°47'07"-59°07'N, 127°25'03"-27°06'E), 水深 123 m, 2006年11月4日, 底曳網, 鹿児島大学附属練習船かごしま丸。

記載 背鰭条数は IV-9; 臀鰭条数は 9; 胸鰭条数は ii + 18; 腹鰭条数は I, 5; 尾鰭条数は i + 3 +

Table 1. Number of ocelli at first dorsal fin in males of *Neosynchiropus moyeri* and *N. ocellatus*, both from Kagoshima Prefecture, Japan.

	2	3	4	5
<i>N. moyeri</i> (n = 1)	1	—	—	—
<i>N. ocellatus</i> (n = 4)	1	—	2	1

ii + 2 + ii. 背鰭第1棘が伸長する。背鰭第9軟条の前方枝先端が分岐する。尾鰭中央部の軟条が不分岐である。臀鰭が雄では顕著な斑紋がなく、雌では外縁がわずかに暗色となる (Nakabo, 1988; 中坊, 2000)。

分布 日本国外では、台湾、インドネシア、およびニューギニアから報告されている (Shen, 1984; 益田ほか, 1988; Fricke, 2002)。国内では、静岡県、和歌山県、長崎県、および鹿児島県などの南日本と東シナ海から報告されている (Nakabo, 1983; 益田ほか, 1988; 中坊, 1988, 2000; 本研究)。



Fig. 3. Fresh specimen of *Bathycallionymus kaianus* from Kagoshima Prefecture, Japan (KAUM-I. 1245, 88.3 mm SL).

Calliurichthys japonicus (Houttuyn, 1782)

ヨメゴチ (Fig. 4)

標本 KAUM-I. 785, 体長 157.0 mm, 雄, 鹿児島県南大隅町佐多の伊座敷港北 1 km 沖 (31°05'N, 130°41'E), 水深 30–40 m, 2006 年 9 月 25 日, 定置網, 築地新光子; KAUM-I. 11892, 体長 73.8 mm, 鹿児島県南さつま市笠沙町片浦崎ノ山東側 (31°25'44"N, 130°11'49"E), 水深 27 m, 2008 年 3 月 5 日, 定置網, 伊東正英; KAUM-I. 26493, 体長 90.0 mm, 鹿児島県南さつま市笠沙町片浦崎ノ山東側, 水深 27 m, 2010 年 1 月 8 日, 定置網, 伊東正英。

記載 背鰭条数は IV-9; 臀鰭条数は 8; 胸鰭条数は ii-iii + 17; 腹鰭条数は I, 5; 尾鰭条数は i + 7 + ii. 後頭部に 1 対の骨質隆起がある。前鰓蓋骨棘はまっすぐで、内側に 5–13 の突起があり、鋸歯状である。雄の背鰭第 1 棘と第 2 棘は糸状に伸長する。第 1 背鰭の第 3 棘と第 4 棘の間に 1 黒色斑がある。尾鰭は長く、雄では体長と概ね同長。

分布 日本国外では、インド、韓国、中国、台

湾、ベトナム、タイ、インドネシア、フィリピン、およびオーストラリアなどのインドから西部太平洋域に分布する (Nakabo, 1983; Shen, 1984; 益田ほか, 1988; Fricke, 2001, 2002)。国内では、和歌山県、高知県、長崎県、および鹿児島県などの本州中部以南から報告されている (Kamohara, 1952a; Nakabo, 1983; 益田ほか, 1988; 平田ほか, 1996; 中坊, 2000; 本研究)。

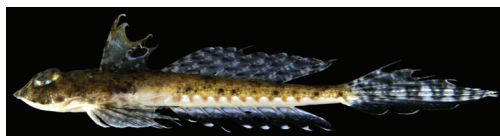


Fig. 4. Fresh specimen of *Calliurichthys japonicus* from Kagoshima Prefecture, Japan (KAUM-I. 11892, 73.8 mm SL).

Dactylopus dactylopus

(Valenciennes in Cuvier and Valenciennes, 1837)

イッポンテグリ (Fig. 5)

標本 KAUM-I. 17780, 体長 96.1 mm, 鹿児島県; KAUM-I. 17806, 体長 87.0 mm, 鹿児島県; KAUM-I. 17807, 体長 52.9 mm, 鹿児島県。

記載 背鰭条数は IV-8; 臀鰭条数は 7; 胸鰭条数は ii + 17; 腹鰭条数は I, 1-4; 尾鰭条数は i + 7 + ii. 臀鰭の最終軟条が先端で分岐する。腹鰭の棘と第 1 軟条が付着し、他軟条から遊離する。

分布 日本国外では、タイ、台湾、中国、ベトナム、マレーシア、シンガポール、インドネシア、フィリピン、パラオ、およびオーストラリアなどの西部太平洋域に分布する (Nakabo, 1983; Shen, 1984; Fricke, 2001, 2002)。国内では、琉球列島から報告がある (Nakabo, 1983; 中坊, 1988, 2000)。

備考 本研究で用いたイッポンテグリは、鹿児島大学水産学部から移管されたものであり、詳細な採集データが不明である。また、本種の日本国内での報告は琉球列島からのみであるため、本標本は鹿児島県本土から得られたものではない可能性が高い。



Fig. 5. Preserved specimen of *Dactylopus dactylopus* from Kagoshima Prefecture, Japan (KAUM-I. 17780, 96.1 mm SL).

***Diplogrammus xenicus* (Jordan and Thompson, 1914)**
コブヌメリ (Fig. 6)

標本 KAUM-I. 20379, 体長 82.0 mm, 雄, 鹿児島県熊毛郡屋久島町一湊一湊海岸 (30°27'22"N, 130°29'47"E), 水深 1.0–4.0 m, 2008 年 10 月 31 日, タモ網, KAUM 魚類チーム.

記載 背鰭条数は IV-8; 臀鰭条数は 7; 胸鰭条数は ii + 15; 腹鰭条数は I, 5; 尾鰭条数は i + 7 + ii. 上顎骨の後端にコブ状の突起がある. 前鰓蓋骨棘は長く, 後端は内側に強く曲がり, 内側に 3–9 本の突起がある. 眼下感覚管の先端が分岐する. 鰓蓋部が皮弁状になる. 体側下部に体軸方向の 1 皮褶がある. 雄成魚の臀鰭鰭膜にハの字状の暗色斑がある.

分布 日本国外では, 台湾とオーストラリアから報告がある (平田ほか, 1996; Fricke, 2002). 国内では, 愛知県, 静岡県, 高知県, 鹿児島県, および沖縄諸島などの南日本太平洋岸から琉球列島に分布する (Nakabo, 1983; 益田ほか, 1988; 中坊, 1988, 2000; 平田ほか, 1996; 本研究).



Fig. 6. Fresh male specimen of *Diplogrammus xenicus* from Kagoshima Prefecture, Japan (KAUM-I. 20379, 82.0 mm SL).

***Neosynchiropus moyeri* (Zaiser and Fricke, 1985)**
ミヤケテグリ (Fig. 1)

標本 KAUM-I. 22535, 雄, 体長 42.3 mm, 鹿児島県南さつま市坊津町丸木浜 (31°17'05"N,

130°12'36"E), 水深 0.5 m, 2009 年 10 月 4 日, タモ網, 岩坪洗樹.

***Neosynchiropus ocellatus* (Pallas, 1770)**
コウワンテグリ (Figs. 2, 7)

標本 KAUM-I. 59, 体長 47.1 mm, 雄, 鹿児島県奄美市笠利町土浜タイドプール (28°24'34"N, 129°40'31"E), 水深 0.5–1.0 m, 2009 年 3 月 27 日, タモ網, 目黒昌利・吉田朋弘; KAUM-I. 5107, 体長 49.2 mm, 雌, 鹿児島県大島郡奄美大島, 1975 年 6 月 9 日; KAUM-I. 13247, 体長 56.1 mm, 雌, 鹿児島県南さつま市笠沙町黒瀬海岸 (31°22'29"N, 130°10'09"E), 水深 5 m, 2009 年 8 月 9 日, タモ網, 伊東正英; KAUM-I. 17455, 体長 35.5 mm, 雌, 鹿児島県奄美市笠利町土浜タイドプール (28°24'34"N, 129°40'31"E), 水深 0.5–1.0 m, 2009 年 3 月 26 日, タモ網, 目黒昌利・吉田朋弘; KAUM-I. 17467, 体長 61.7 mm, 雄, データは KAUM-I. 17455 と同じ; KAUM-I. 21503, 体長 66.7 mm, 雄, データは KAUM-I. 17455 と同じ; KAUM-I. 21504, 体長 62.4 mm, 雄, データは KAUM-I. 17455 と同じ; KAUM-I. 21505, 体長 37.5 mm, 雌, データは KAUM-I. 17455 と同じ; KAUM-I. 21506, 体長 47.3 mm, 雌, データは KAUM-I. 17455 と同じ; KAUM-I. 21769, 体長 32.6 mm, 雌, 鹿児島県熊毛郡屋久島町栗生カマゼノ鼻西側 (30°16'03"N, 130°24'48"E), 水深 0–4 m, 2009 年 7 月 30 日, タモ網, KAUM 魚類チーム.

記載 背鰭条数は IV-8; 臀鰭条数は 7; 胸鰭条数は ii + 17–18; 腹鰭条数は I, 5; 尾鰭条数は i + 7 + ii. 臀鰭軟条が第 1 軟条を除き, すべて先端で分岐する. 雄成魚の第 1 背鰭には 2–6 個 (通常 4 個) の眼状模様がある. 雄の前鰓蓋骨の表面に 1 本の黒褐色帯がある. 雌の臀鰭には 4 本の幅広い褐色斜帯がある. 生鮮時, 体は茶褐色の大理石模様で, 固定後は濃褐色となる.

分布 日本国外では台湾, ベトナム, インドネシア, フィリピン, パラオ, ミクロネシア, マーシャル諸島, ニューギニア, オーストラリア,

ニューカレドニア, ロイヤルティ諸島, ソロモン諸島, パヌアツ, フィジー, トンガ, サモア, マルキーズ諸島, およびピトケアン諸島などのインドから西太平洋域に分布する (Kamohara, 1957; 中坊, 2000; Fricke, 2002). 国内では, 和歌山県, 高知県, 鹿児島県, および沖縄諸島などの南日本太平洋岸から琉球列島に分布する (Kamohara, 1952a; Nakabo, 1983; 中坊, 1988, 2000; 平田ほか, 1996; 本研究).

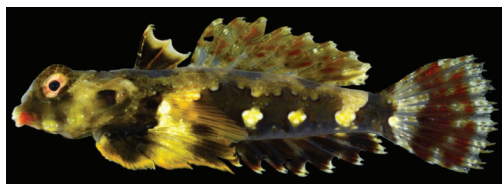


Fig. 7. Fresh female specimen of *Neosynchiropus ocellatus* from Kagoshima Prefecture, Japan (KAUM-I. 17455, 35.5 mm SL).

Pseudocalliurichthys variegatus (Temminck and Schlegel, 1845)
イトヒキヌメリ (Fig. 8)

標本 KAUM-I. 1295, 体長 125.0 mm, 雌, 東シナ海 (31°05'02"-56°00'N, 127°28'02"-29°03'E), 水深 123 m, 2006 年 11 月 4 日, 底曳網, 鹿児島大学附属練習船かごしま丸.

記載 背鰭条数は IV-8; 臀鰭条数は 7; 胸鰭条数は $i + 17$; 腹鰭条数は I, 5; 尾鰭条数は $i + 7 + ii$. 後頭部は微小な骨質突起が多数ある. 前鰓蓋骨棘はまっすぐで, 内側に 4-6 本の突起がある. 雄は背鰭第 1 棘と第 2 棘が糸状に伸長する.

分布 日本国外では, 台湾から報告されている (Fricke, 2002). 国内では, 静岡県, 和歌山県, 長崎県, および鹿児島県などの南日本沿岸と東シナ海に分布する (Nakabo, 1983; 中坊, 1988, 2000; 平田ほか, 1996; 本研究).



Fig. 8. Fresh female specimen of *Pseudocalliurichthys variegatus* from Kagoshima Prefecture, Japan (KAUM-I. 1295, 125.0 mm SL).

Repomucenus curvicornis

(Valenciennes in Cuvier and Valenciennes, 1837)

ネズミゴチ (Figs. 9-10)

標本 KAUM-I. 90, 体長 100.5 mm, 雌, 鹿児島県南さつま市笠沙町片浦崎ノ山東側 (31°25'44"N, 130°11'49"E), 水深 27 m, 2006 年 5 月 17 日, 定置網, 伊東正英; KAUM-I. 3131, 体長 105.9 mm, 雌, 2006 年 2 月 28 日, 採集日以外のデータは KAUM-I. 90 と同じ; KAUM-I. 5905, 体長 100.4 mm, 雄, 鹿児島県鹿児島市七ツ島 (31°29'00"N, 130°31'00"E), 水深 7 m, 2007 年 7 月 28 日, 釣り, 原口百合子; KAUM-I. 9382, 体長 103.9 mm, 雄, 鹿児島県指宿市知林ヶ島沖 (31°16'38"N, 130°40'18"E), 水深 25 m, 2008 年 4 月 23 日, 定置網, 折田水産; KAUM-I. 9898, 体長 85.9 mm, 雌, 2008 年 5 月 14 日, 採集日以外のデータは KAUM-I. 9382 と同じ; KAUM-I. 9899, 体長 92.7 mm, 雌, 2008 年 5 月 14 日, 採集日以外のデータは KAUM-I. 9382 と同じ; KAUM-I. 9900, 体長 94.0 mm, 雄, 2008 年 5 月 14 日, 採集日以外のデータは KAUM-I. 9382 と同じ; KAUM-I. 9901, 体長 97.9 mm, 雄, 2008 年 5 月 14 日, 採集日以外のデータは KAUM-I. 9382 と同じ; KAUM-I. 10221, 体長 115.8 mm, 2008 年 6 月 4 日, 採集日以外のデータは KAUM-I. 9382 と同じ; KAUM-I. 10359, 体長 98.7 mm, 雌, 2008 年 6 月 18 日, 採集日以外のデータは KAUM-I. 9382 と同じ; KAUM-I. 10592, 体長 62.7 mm, 雌, 2008 年 3 月 8 日, 採集日以外のデータは KAUM-I. 90 と同じ; KAUM-I. 14746, 体長 100.5 mm, 雌, 鹿児島県指宿市知林ヶ島沖 (31°16'38"N, 130°40'18"E), 水深 25 m, 2009 年 3 月 4 日, 定置網, 目黒利昌・山下真弘; KAUM-I. 17642, 体長 97.5 mm, 雌, 2009 年 3 月 25 日, 採集日以外のデータは KAUM-I. 14746 と同じ; KAUM-I. 20995, 体長 83.8 mm, 雌, 鹿児島県鹿児島市浜町稲荷川河口南側 (31°36'07"N, 130°34'12"E), 水深 0.5 m, 2009 年 5 月 9 日, 投網, KAUM 魚類チーム; KAUM-I. 20996, 体長 73.1 mm, 雌, 採集日以外のデータは KAUM-I. 20995

と同じ；KAUM-I. 20997，体長 71.3 mm，雌，採集日以外のデータは KAUM-I. 20995 と同じ。

記載 背鰭条数は IV-9；臀鰭条数は 9；胸鰭条数は $i + 17-19$ ；腹鰭条数は I, 5；尾鰭条数は $i + 7 + ii$ 。前鰓蓋骨棘は強大で，後端が内側に曲がり，内側の突起数は 2-4 本である。眼下感覚管には外側に向かう分岐がある。第 1 背鰭は雄では縁辺が黒色，雌では白く縁取られた黒色斑がある。

分布 日本国外では韓国，中国，台湾，およびフィリピンから報告されている (Nakabo, 1983; Fricke, 2002)。国内では，鳥取県，高知県，長崎県，宮崎県，および鹿児島県などの函館以南の各地の沿岸と東シナ海に分布する (Nakabo, 1983；中坊, 1988, 2000；尼岡ほか, 1995；平田ほか, 1996；本研究)。

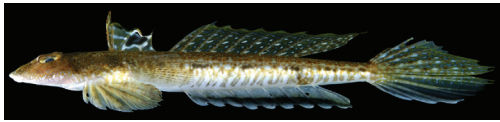


Fig. 9. Fresh male specimen of *Repomucenus curvicornis* from Kagoshima Prefecture, Japan (KAUM-I. 9382, 103.9 mm SL).

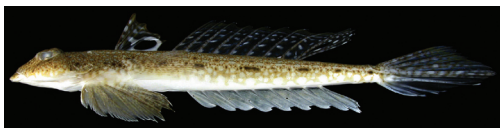


Fig. 10. Fresh female specimen of *Repomucenus curvicornis* from Kagoshima Prefecture, Japan (KAUM-I. 3131, 105.9 mm SL).

Repomucenus cf. curvicornis

(Fig. 11)

標本 KAUM-I. 26353，体長 149.9 mm，鹿児島県薩摩川内市上甕町瀬上海鼠池 (31°51'42"N, 129°52'33"E)，水深 0.5-1 m，2008 年 6 月 30 日，タモ網，米沢俊彦。

記載 背鰭条数は IV-9；臀鰭条数は 8；胸鰭条数は $i + 18$ ；腹鰭条数は I, 5；尾鰭条数は $i + 7 + ii$ 。前鰓蓋骨棘は強大で，後端が内側に強く曲がる。また，内側の突起数は 2 本で，後方の突起が前方の突起より大きい。尾柄部背面に左右の体側の側線を結ぶ連結枝がある。第 2 背鰭の先端は最

終軟条のみ分岐する。第 2 背鰭には黒色点が 2 列並び，さまざまな大きさや形をした白色斑がある。臀鰭は白色。

備考 松沼ほか (2010) は本標本を *Repomucenus cf. curvicornis* として報告した。本標本は *R. curvicornis* によく似るが，前鰓蓋骨棘の後端が内側に強く曲がること (*R. curvicornis* では弱く曲がる)，第 2 背鰭の白色斑の大きさや形が変異に富むこと (vs. 白色斑は円形) などで異なる。今後，鹿児島県薩摩川内市上甕町瀬上海鼠池からのさらなる標本採集調査が必要である。

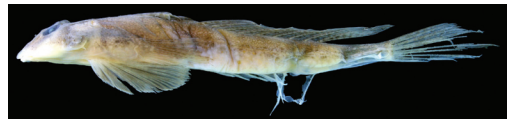


Fig. 11. Preserved specimen of *Repomucenus cf. curvicornis*, Kagoshima Prefecture, Japan (KAUM-I. 26353, 149.9 mm SL).

Repomucenus huguenini (Bleeker, 1858-1859)

ヤリヌメリ (Figs. 12-13)

標本 KAUM-I. 786，体長 113.8 mm，雌，鹿児島県大隅町佐多の伊座敷港北 1 km 沖 (31°05'N, 130°41'E)，水深 30-40 m，2006 年 9 月 25 日，定置網，築地新光子；KAUM-I. 787，体長 112.6 mm，雄，データは KAUM-I. 786 と同じ；KAUM-I. 1008，体長 71.1 mm，雄，鹿児島県南さつま市笠沙町片浦崎ノ山東側 (31°25'44"N, 130°11'49"E)，水深 27 m，2006 年 1 月 26 日，定置網，伊東正英；KAUM-I. 3373，体長 109.0 mm，雄，鹿児島県高山町，2006 年 5 月 25 日，定置網，中畑勝見；KAUM-I. 9383，体長 92.2 mm，雄，鹿児島県指宿市知林ヶ島沖 (31°16'38"N, 130°40'18"E)，水深 25 m，2008 年 4 月 23 日，定置網，折田水産；KAUM-I. 10924，体長 126.5 mm，雌，鹿児島県日置市東市町江口漁港 (31°36'-38'N, 130°16'-17'E)，水深 20-40 m，2008 年 6 月 20 日，底曳網，目黒利昌・荻原豪太；KAUM-I. 10925，体長 141.7 mm，雌，データは KAUM-I. 10924 と同じ；KAUM-I. 10812，体長 146.7 mm，雄，データは KAUM-I. 10924 と同じ；

KAUM-I. 10817, 体長 146.6 mm, 雄, データは KAUM-I. 10924 と同じ; KAUM-I. 10821, 体長 151.0 mm, 雄, データは KAUM-I. 10924 と同じ; KAUM-I. 10854, 体長 128.8 mm, 雌, データは KAUM-I. 10924 と同じ.

記載 背鰭条数は IV-9; 臀鰭条数は 9; 胸鰭条数は $i + 17-18$; 腹鰭条数は I, 5; 尾鰭条数は $i + 7 + ii$. 前鰓蓋骨棘はまっすぐで, 内側が鋸歯状である. 眼下感覚管は, 内側に向かう短い分岐をもつのみで, 先端は分岐しない. 第 1 背鰭の第 1-3 棘が伸長する. 第 2 背鰭に多数の小黒色斑がある. 臀鰭下縁は黒色.

分布 日本国外では, 韓国, 中国, 台湾, ベトナム, およびタイから報告されている (Fricke, 2002). 国内では, 鳥取県, 高知県, 長崎県, および鹿児島県などの函館以南の各地の沿岸と東シナ海に分布する (Nakabo, 1983; 中坊, 1988, 2000; 尼岡ほか, 1995; 平田ほか, 1996; 本研究).



Fig. 12. Fresh male specimen of *Repomucenus huguenini* from Kagoshima Prefecture, Japan (KAUM-I. 9383, 92.2 mm SL).



Fig. 13. Fresh female specimen of *Repomucenus huguenini* from Kagoshima Prefecture, Japan (KAUM-I. 786, 113.8 mm SL).

Repomucenus valenciennei (Temminck and Schlegel, 1845)
ハタタテヌメリ (Figs. 14–15)

標本 KAUM-I. 595, 体長 70.4 mm, 雄, 鹿児島県鹿児島湾竜ヶ水沖 ($31^{\circ}37'69-88''N$, $130^{\circ}37'23-52''E$), 水深 128.5–130.9 m, 2006 年 9 月 11 日, 底曳網, 鹿児島大学附属練習船南星丸; KAUM-I. 596, 体長 52.4 mm, 雌, データは KAUM-I. 595 と同じ; KAUM-I. 4495, 体長 68.3

mm, 雌, 鹿児島県, KAUM 魚類チーム, 鹿児島魚類市場拾得物.

記載 背鰭条数は IV-9; 臀鰭条数は 9; 胸鰭条数は $i + 16$; 腹鰭条数は I, 5; 尾鰭条数は $i + 7 + ii$. 前鰓蓋骨棘は短く, 後端が内側に曲がり, 突起数は内側が 2-4 本, 外側が 1 本である. 眼下感覚管には内側に向かう短い分岐と, 外側に向かう 3 本の分岐がある. 雄の第 1 背鰭棘と尾鰭軟条は糸状に伸長する. 尾鰭に多数の小黒色斑が散在する.

分布 日本国外では, 朝鮮半島, 中国, および台湾から報告されている (中坊, 1988, 2000; 尼岡ほか, 1995; Fricke, 2002). 国内では, 福井県, 神奈川県, 京都府, 長崎県, および鹿児島県などの石狩湾以南の各地の沿岸に分布する (中坊, 1988, 2000; 尼岡ほか, 1995; 本研究).



Fig. 14. Fresh male specimen of *Repomucenus valenciennei* from Kagoshima Prefecture, Japan (KAUM-I. 595, 70.4 mm SL).



Fig. 15. Fresh female specimen of *Repomucenus valenciennei* from Kagoshima Prefecture, Japan (KAUM-I. 596, 52.4 mm SL).

Repomucenus virgis (Jordan and Fowler, 1903)
ホロナメリ (Fig. 16)

標本 KAUM-I. 22584, 体長 60.5 mm, 東シナ海 ($30^{\circ}52'-56''N$, $127^{\circ}24'-30''E$), 水深 123–124 m, 2009 年 11 月 7 日, 底曳網, 鹿児島大学附属練習船かごしま丸.

記載 背鰭条数は IV-9; 臀鰭条数は 9; 胸鰭条数は $i + 18$; 腹鰭条数は I, 5; 尾鰭条数は $i + 7 + ii$. 前鰓蓋骨棘は短く, 後端は内側に曲がり, 2-4 本の突起がある. 雄成魚の第 1 背鰭は著しく大きく, すべての棘が糸状に伸長する.

分布 日本国外では中国と台湾から報告されている (Fricke, 2002). 国内では, 若狭湾から長崎, 小名浜から高知県, 東シナ海に分布する (Kamohara, 1952b; Nakabo, 1983; 中坊, 1988, 2000; 本研究).



Fig. 16. Fresh specimen of *Repomucenus virgis* from Kagoshima Prefecture, Japan (KAUM-I. 22584, 60.5 mm SL).

■ 謝辞

本報告を取りまとめるにあたり, 標本採集に協力して下さった江口漁業協同組合の西田良一氏, 折田水産の関係者のみなさま, 鹿児島水族館公社展示課の職員のみなさま, 鹿児島大学附属練習船かごしま丸と南星丸の乗組員のみなさま, 軟X線写真の撮影にご協力下さった同大総合研究博物館の橋本達也氏, KAUM-I. 22584の採集データをくださった同大水産学部の小針統氏に深く感謝の意を表す。また, 標本の処理・登録作業などを手伝って下さった同大水産学研究科の荻原豪太氏, 松沼瑞樹氏, および目黒昌利氏, 同大水産学部の山下真弘氏と吉田朋弘氏, 同大総合研究博物館ボランティアの伊東正英氏, 高山真由美女史ならびに原口百合子女士に厚くお礼を申し上げる。本研究は, 鹿児島大学総合研究博物館の「鹿児島県産魚類の多様性調査プロジェクト」と国立科学博物館の「黒潮プロジェクト (浅海性生物の時空間分布と巨大海流の関係を探る)」の一環として行われた。

■ 引用文献

- 尼岡邦夫・仲谷一宏・矢部 衛. 1995. 北日本魚類大図鑑. 北日本海洋センター, 札幌. 390 pp.
- Fricke, R. 2001. Families Callionymidae, Draconettidae, pp. 3549–3573. In K. Carpenter and V. Niem (eds.). FAO species identification guide for fishery purposes. The living marine resources of the western central Pacific. Volume 6. Bony fishes part 4. FAO, Rome.
- Fricke, R. 2002. Annotated checklist of the dragonet families Callionymidae and Draconettidae (Teleostei: Callionymoidei), with comments on callionymid fish classification. Stuttgarter Beiträge zur Naturkunde, Serie A (Biologie), 64(5): 1–103.
- 平田智法・山川 武・岩田明久・真鍋三郎・平松 亘・大西信弘. 1996. 高知県柏島の魚類相. 行動と生態に関する記述を中心として. 高知大学海洋生物教育研究センター研究報告, (16): 1–177.
- Kamohara, T. 1952a. Additions to the fish fauna of Prov. Tosa, Japan. Reports of the Kochi University Natural Science, (2): 1–10.
- Kamohara, T. 1952b. Revised descriptions of the offshore bottom-fishes of Prov. Tosa, Japan. Reports of the Kochi University Natural Science, (3): 1–122.
- Kamohara, T. 1957. List of fishes from Amami-oshima and adjacent regions, Kagoshima Prefecture, Japan. Reports of the Usa Marine Biological Station, 4 (1): 1–65.
- Kuiter R. H. and T. Tonozuka. 2004. Pictorial guide to: Indonesian reef fishes, part 2. i–v + pp. 304–622. PT Dive & Dive's, Bali.
- 益田 一・荒賀忠一・吉野哲夫. 1988. 魚類図鑑. 南日本の沿岸魚. 改訂版第2刷. 東海大学出版会, 東京. 382 pp.
- 松沼瑞樹・米沢俊彦・本村浩之. 2010. 上甕島汽水湖群の魚類相およびニクハゼ *Gymnogobius heptacanthus* (スズキ目ハゼ科)の記録. Nature of Kagoshima, 36: 79–87.
- Motomura, H. and T. Mukai. 2006. *Tonlesapia tsukawakii*, a new genus and species of freshwater dragonet (Perciformes: Callionymidae) from Lake Tonle Sap, Cambodia. Ichthyological Exploration of Freshwaters, 17 (1): 43–52.
- Nakabo, T. 1982. Revision of the dragonets (Pisces: Callionymidae). Publications of Seto Marine Biological Laboratory, 27 (1/3): 1–131.
- Nakabo, T. 1983. Revision of the dragonets (Pisces: Callionymidae) found in the waters of Japan. Publications of Seto Marine Biological Laboratory, 27 (4/6): 193–259.
- 中坊徹次. 1988. ネズップ科, pp. 328–331. 益田 一・尼岡邦夫・荒賀忠一・上野輝彌・吉野哲夫 (編), 日本産魚類大図鑑. 第2版. 東海大学出版会, 東京.
- 中坊徹次. 2000. ネズップ科, pp. 1418–1431, 1604–1605. 中坊徹次 (編). 日本産魚類検索. 全種の同定. 第2版. 東海大学出版会, 東京.
- 岡村 収. 2009. ネズップ科, pp. 574–581. 岡村 収・尼岡邦夫 (編), 日本海水魚. 第3版. 山と溪谷社, 東京.
- Randall, J. E. 2005. Reef and shore fishes of the South Pacific: New Caledonia to Tahiti and the Pitcairn Islands. University of Hawai'i Press, Honolulu. xii + 707 pp.
- Shen, S.-C. 1984. Coastal fishes of Taiwan. National Taiwan Museum, Taipei. 190 pp., 152 pls.
- 財団法人日本色彩研究所 (監修). 2007. 改訂版色名小辞典. 第18刷. 日本色研事業株式会社, 東京. 90 pp.
- Zaiser, M. J. and R. Fricke. 1985. *Synchiropus moyeri*, a new species of dragonet (Callionymidae) from Miyake-jima, Japan. Japanese Journal of Ichthyology, 31 (4): 389–397.